1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577600244				
法人名	社会福祉法人 正清会				
事業所名	グループホーム白松苑				
所在地	E地 山口県山口市阿知須4900番地4				
自己評価作成日	平成23年11月17日	評価結果市町受理日	平成24年4月19日		

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要(評価機関記入)】

63 軟な支援により、安心して暮らせている

	評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク				
所在地 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内						
	訪問調査日	平成23年12月26日				

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・調理や盛りつけ、配膳等できることを分担しながら、三食とも皆で作っています。四季の花々の見学・干柿作り・果物狩りや「たまには外で食べたいね」の、入居者の一言で出かけたり、入居者希望で生家(大島)へ里帰りといった、小回りの効くアクティブな運営を行っています。協力病院や併設の特別養護老人ホームからの応援体制により、健康管理にも気を配っています。防災訓練を2ヶ月毎に開催し、災害時の対応の訓練やAEDの使用方法を学び、緊急時に対する知識を習得している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の方針である「3食を一緒に作り共にいただく」を実践しておられます。利用者は買い物、野菜の下ごしらえ、調理、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなど、一人ひとりができることを職員と一緒にされています。利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じものを食べながら、会話を弾ませて食事が楽しめるように支援しておられます。献立を栄養士に見てもらい、アドバイスを得ておおよその栄養バランスのとれた食事の提供をされており、利用者の希望を聞いたり、誕生日や行事会のメニューを工夫し、お弁当や外食など、利用者が食事への関心を持たれるように配慮して取り組まれています。利用者の思いを大切され、2ヵ月に1回利用者の自宅に行き、畑づくりや仏前参り、近所の人との交流などを支援されています。利用者の希望にそって遠方にある生家までの里帰りを実現されるなど馴染みの人や場との関係が途切れないように支援に努めておられます。

٧.	7. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
	項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項目	↓該	取 り 組 み の 成 果 当するものに〇印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる	2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が2. 利用者の2/3くらいが3. 利用者の1/3くらいが4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている	3. 利用者の2/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが				

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

自	外	-= D	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1		○基づく運営 ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	理念に「家族のように共に生活する」「地域の方とふれあいをもつ」をあげ、方針に「3食を一緒に作り共にいただく」「今を受け入れ、地域活動に参加します」をかかげ、全職員共有し実践している	理念をつくり、朝のミーティング時に理念の確	
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	歌声喫茶やふれあい祭り、中学校の運動会などに参加し、中学生の車椅子介助もあり、 地域へ出掛けている	利用者は公民館で行なわれる歌声喫茶への参加や法人主催の夏祭りに参加して地域の人と交流する他、中学校の運動会の見学、小・中学生の体験学習、ボランティアの訪問など交流を楽しんでいる。散歩やゴミ捨てで出合った地域の人と言葉を交わしたり、花をもらうなどしている。自治会のいきいきサロンで認知症出張講座を行い、地域の理解を得るよう取り組んでいる。	
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	認知症出張講座を地域で年3回ぐらい行っ ている		
4		○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ユニット会議を開き、評価の意義を全職員で 話し合い、評価を活かして改善に取り組んで いる	全職員が評価の意義について理解し、ユニット毎の会議に於いて、3回に分けて全項目について話し合い、管理者、主任でまとめて自己評価としている。みつかった課題や前回の外部評価結果について、応急手当やAEDの使い方などの勉強会を実施するなど、できることから改善に取り組んでいる。	
5		評価への取り組み状況等について報告や話し合	防災訓練について実施した内容を説明し、 多くの意見を頂いている。会議の前に、皆さ んの前で防火訓練を行い、新たに意見交換 をし、今後の取り組み方に活かしている	2ヵ月に1回開催し、利用者の状況、行事予定、活動、外部評価結果などを報告し意見交換している。会議の中で防災訓練を実施し、防災訓練の取り組みについても話し合い、出た意見を運営に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括担当者は、2か月1回運営推進会 議に参加して頂き、活動報告をし意見をも らっている。司法書士と連携をとり、保佐人を つけて相談している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加している他、市の担当課とは電話や 出向くなどして情報交換や相談をするなど連絡を常にとっている。	

自己	外	ルーノホーム 日松処 項 目	自己評価	外部評価	E
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	修会に出席し、正しく理解し、取り組んでい	職員は法人内研修で身体拘束について学び 正しく理解し、日常の業務の中で職員同士が 注意しあって、抑制や拘束のないケアに取り 組んでいる。日中、玄関には鍵をかけておら ず、外出を察知したら、職員が一緒に出かけ ている。	
8		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全職員にアンケートを行う。勉強会にも参加 し虐待の防止に努めている。また全職員の 意識・統一を図っている		
9		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	て、保佐人と連携をとり、話し合いを持ってい		
10			入居時・退去時に説明し納得をいただいている。料金改定等変更あれば個人個人に説明し、理解・納得を得ている		
		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、苦情解決委員の方より毎回のように、「苦情の受け入れをしています」と、伝えられています。 意見箱を設置し、記入の呼びかけをしている。 家族会で意見をもらっている	運営推進会議や電話、面会時、家族会などで意見や要望を聞き運営に反映させている。 相談、苦情の受付体制や処理手続を定め周知している。 意見箱の設置をしている。	
12		〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と職員の面接があり、適宜意見を話し合う機会があり、運営に反映させている	ユニット会議や法人の全体会議に於いて、職員の意見や提案を聞く機会を設ける他、代表者の面接もあり、出された意見は運営に反映させている。記録の簡素化や記録様式の改善などに取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	人事制度があり、職員が向上心を持って働 けるよう、職能評価を行っている		

自	外	ループホーム 日松宛 項 目	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	外部の研修に参加している。法人内の研修 があり、年間計画で開催され参加できている	外部研修は勤務の一環として参加の機会を 提供し、受講者は復命報告をして、資料が閲 覧できるようにし、全職員で共有している。月 2回の法人内研修や内部研修として、月1回 のユニット会議の中でテーマを決めて実施し ている。業務の中で働きながら学べるように取 り組んでいる。	
15		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、研修会に 参加したり、勉強会や交流会があり、交流で きている。他施設の見学に行き、サービスの 質の向上にむけ、取り組みを行っている		
Ⅱ.5	えから	:信頼に向けた関係づくりと支援			
16		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前施設や家族から、情報をいただき、 本人が早く安心して生活できるよう、対話に 努めている		
17		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	本人・家族と連携を密にし、要望等お聞きしながら、信頼関係に努めている。		
18		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、本人・家族のその時必要な サービスの対応に努めている。		
19		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人から昔のことなど、教えていただく事も 多く、昔の知恵を今の生活に活かし、共に生 活する立場を築く様、努めている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族と日頃からコミュニケーションをとり、行 事にも一緒に参加され、共に本人を支えて いく関係を築いている		

自	外	ルーノホーム 日松処	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	, ,	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員付き添いの元、自宅へ帰られ、仏前参りや、畑の草取り、さつま芋や玉葱を一緒に世話をされている。また、街で近所の方と出会った時、声を掛け合っている	2ヵ月に1回程度自宅に帰る利用者に職員が同行し、仏前参りや畑の草取り、野菜づくり(さつまいも、玉ネギなど)を支援している。帰宅している時には近所の人と交流している。馴染みの店での買い物や美容院の利用、かかりつけ医への受診など支援し、馴染みの人や場との関係が途切れないように取り組んでいる。	
22		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	トイレや居室を教えあったり、食事の時声を 掛け合って、利用者同士の助け合いが見ら れている。歩行時のきずかいや、手を引いて あげる場面が見られる		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時にはお見舞いに行っている。併設の 特養に行かれた時は、声掛けを行い、本人・ 家族との関係が保たれて、会話などできてい る		
		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	-		
24	(11)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	個人の希望の場所(大島郡へ生家を見に行く)へ行き、家族と連携を密にし信頼関係を保っている。その方のニーズを把握し、その人らしい暮らしが出来るよう検討し、支援している	入居時に記入した生活史記録表の活用や、 入浴の関わりの時や日常ケアの中で利用者 から聞き取り、生活記録に記録し、日ごろから カンファレンスで職員間の共有を図り、思いや 意向の把握に努めている。把握した一人ひと りの思いを実現できるよう取り組んでいる。	
25		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、前サービス提供者からの情報・生活などで、これからの暮らしの把握に努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	その人らしい暮らしが続けられる様、現状を 総合的に把握するよう努めている		

自	外	77 7 N. A. LIAM.	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	1ヶ月ごとのモニタリングで見直しを行っている。他、必要時の見直しも行っている	月1回のカンファレンスの中で利用者の担当職員、ユニット主任、管理者(計画作成担当者)が参加し、把握している利用者の思いや家族の意向、利用者の状態についてなど話し合い、介護計画を作成している。計画に対して毎月実践状況をチェックし、月1回のモニタリング、3ヶ月ごとの見直しや、状況に変化があれば、その都度見直している。	
28		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別の記録を記入し、ケアプランの 実施などの実践や計画の見直しに活かして いる		
29		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居室が空いている時は、必要に応じて、 ショートスティの利用を受けている		
30		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報誌等で情報を得て、ふれあいまつりや歌声喫茶などに、参加できている。ふれあい祭りには、中学生ボランティアがあり交流がとれている。ソーメン流し・しめ縄作りもボランティアの方と行い、日々の暮らしを楽しまれている		
31	(13)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	を密にし、受診時には家族も同行され、本	利用者のこれまでのかかりつけ医や協力医療機関への受診の支援をしている。協力医の往診(週2回、必要時)や歯科往診(必要時)もある。受診時には利用者の情報提供を行い、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	特養の看護職と連携を持ち、急な対応にも 協力がとられて、日常の健康管理ができて いる		
33		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院時にサマリーを提供して、支援方法を 伝えている。 退院時には、病院関係者、本 人・家族と連携をとり、話し合っている		

占	外	ループホーム 日松苑	自己評価	外部評価	
自己	31	項 目	実践状況	実践状況	Ⅲ
		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	「看取りに関する指針」を定め、本人・家族・医師と話し合い、方針を共有している	事業所の指針があり、入居時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、本人、家族、医師、関係者で話し合い方針を共有して支援している。法人内施設への移設や入院などの支援をしている。	XOXX / YYTCHIY CWIN C/CO F 1 B
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとり の状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急 変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手 当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を 身につけている。	リスクマネジメント委員がおり、年2回の研修に参加、事故報告の検討をし、利用者の状況を職員で共有し、事故防止に努めている。ユニット会議で、全職員で、応急手当・AEDの使い方の勉強会に参加し、実践力を身につけている	ニアミス・事故報告書に記入し、対応策をその場で話し合ったあと、ユニット会議で改善策を検討して、介護計画に反映するなど、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。全ての職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施までには至っていない。	・全ての職員を対象にした応急手当や 初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	警察や消防、ご近所の方にも、協力していただける様働きかけている。特養からの応援も得られている。法人内で防災委員会があり、防災訓練に参加している。グループホームでは2ヶ月に1回防災訓練をしている。不明な点は消防署や取引先より指導をもらっている。	年2回、法人全体での防災訓練(夜間想定を含む)に参加している。事業所内で通報と避難訓練を2ヶ月に1回実施している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
		人らしい暮らしを続けるための日々の支援 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーに配慮した対 応に、職員全員で取り込んでいる	職員に接遇研修を行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないことを徹底している。不適切な言葉かけや対応に気づいたらミーティングで確認し話し合って、利用者を尊重したケアに取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	解りやすい様に話しかけたり、選びやすいように声掛けを工夫し、自分で決めてもらっている		

自己	外	ルーノホーム 日伝列 	自己評価	外部評価	西
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを大切にし、希望を聴きながら、その人らしい1日を過ごしてもらえる様、 支援している		
40		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	紙染め、フェィスシェーバーにて顔の手入れを要求の都度、本人のおしゃれ心を大切にしている。自由にその人らしいおしゃれが出来るよう、支援している		
41		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	芋掘りを全員で行い、芋づるのしごをして調理し、会話も弾む食卓に添えることで、会話も弾み食べる事を楽しんでもらっている。一緒に買い物へ出掛けたり、食事作りを一緒に楽しんでいる。本人の誕生日等記念日には好きな物を提供し、特別な日を感じてもらっている。家族も同席される事もある	三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は買い物、野菜の下ごしらえ、調理、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなど一人ひとりができることを職員と一緒にしている。利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じものを食べながら会話を弾ませ食事が喜びとなるように配慮している。利用者の好みを聞き誕生日などの記念日に提供したり、行事会のメニューの工夫や外食など、利用者が食事を楽しめることができる支援をしている。	
42		確保できるよう、一人のとりの状態や力、音順に 応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を記入している。定期 的に医師・看護師の健康チャックも受けてい る。また、特養の栄養士にもアドバイスをも らっている		
43		人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	義歯に歯石等汚れがある時は歯科で磨いてもらっている。毎食後、うがい液でうがいを行っている。夕食後は磨き粉を使って義歯をチェックしている。義歯は毎日、夜間ポリデントにつけて、清潔を維持している		
44		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人に合ったタイミング誘導ができている。排泄記録を記入し、その方にあった排泄 用品を検討し、トイレでの排泄に向け、全職 員が支援している	排泄記録を活用して、一人ひとりのパターンを把握し、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	

自	外	ルーノホーム 日松宛 	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	垻 日	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	排便記録を記入し、便秘にならない様、バナナ酢による、食べ物の工夫を行って、便秘の予防に取り組んでいる		
46		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をして いる	楽しんで入浴して頂けるよう、ゆっくりその人に会った、入浴の支援をしている。希望により、午前中も対応できる	毎日14時から17時まで、ゆっくり入浴できるように支援している。入浴時、歌を歌ったり、家族のこと、昔のことなどを話し、入浴が楽しめるように支援している。	
47		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間寝る事で、夜眠れない方は、時間を見 計らい、体調に合わせて、休息してもらって いる		
48		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用の勉強会を行い、服薬の 支援と症状の変化の確認に努めている		
		〇活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	確認を行ったり、その日の献立を知らせ、楽 しんで米とぎをしてくださる方、野菜切りをし	書き物(計算ドリル、歌詞を書く)、工作(ゴミ箱づくり)、歌、体操、カラオケ、テレビ視聴(ドラマ、スポーツ)、週刊誌、新聞の購読、ゲーム、散歩、買い物、ドライブ、干し柿づくり、食事づくり、畑づくり、掃除、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50		〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物への外出、ご自分の家への付き添い に出掛け、仏前参りや畑仕事もされている。 大島へ本人希望により里帰りされた。四季の 花々の見学・お地蔵様・八幡様・外食には、 皆さんと出掛けている	日常的に散歩や買い物に出かけている。自宅に帰り畑仕事をしたり、遠方の自宅に里帰りするなどの他、ドライブで季節の花見や外食にでかけるなど外出の支援をしている。	

自	外	ルーノホーム 日松処	自己評価	外部評価	Ш
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所 持したり使えるように支援している	本人が持参され、理美容院代や買い物なども、ご自分で支払いされる。お預かりしている 方もあり、お祭りの時には、一緒に付き添い、買い物の支援をしている		
52		〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話で話されている。 手紙についても、家族へ出されている。 絵手紙が毎日のように届く方もおられる		
53		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の間があり、面会の方々と食事をされたり、冬はこたつに入られ、団欒の雰囲気がある。利用者が生け花をされている。 夏祭りの金魚を飼って楽しまれている	共有空間は広々として明るく、温度、湿度、換気に配慮している。玄関や各所に利用者の活けた季節の花が置いてある他、窓からの景色で四季の移り変わりを感じることができる。畳のスペースもあり、テレビやソファ、テーブル、椅子など安全性に気をつけて配置してあり、一人ひとりの居場所づくりをしている他、調理の音や匂いもあり、五感刺激にも配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	リビングの窓際にソファを置き、外の景色が見えるようにし、四季を感じてもらっている		
55	(24)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	されていた、なじみのタンスや使い慣れた寝		
56		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	歩行器やシルバーカーが移動されやすい 様、空間を保持し、生活環境を整えている。 安心して異動して頂ける様、障害物を置か ないようにしている		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム白松苑

作成日: 平成 23年 11月 17日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	・外に出掛けることが少ない	・なじみの人とふれあいを持つ	・散歩を行い、世間話をしていく ・午前リハビリ体操後実施する	1年
2	35	・緊急時の対応の訓練、勉強会が少ない	・実践力を身につける	・2ヶ月に1回の勉強会をする。12月より実施する	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。 注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。